



右／四ヶ町商店街のアーケード通りから見た
レトロ通りの入口

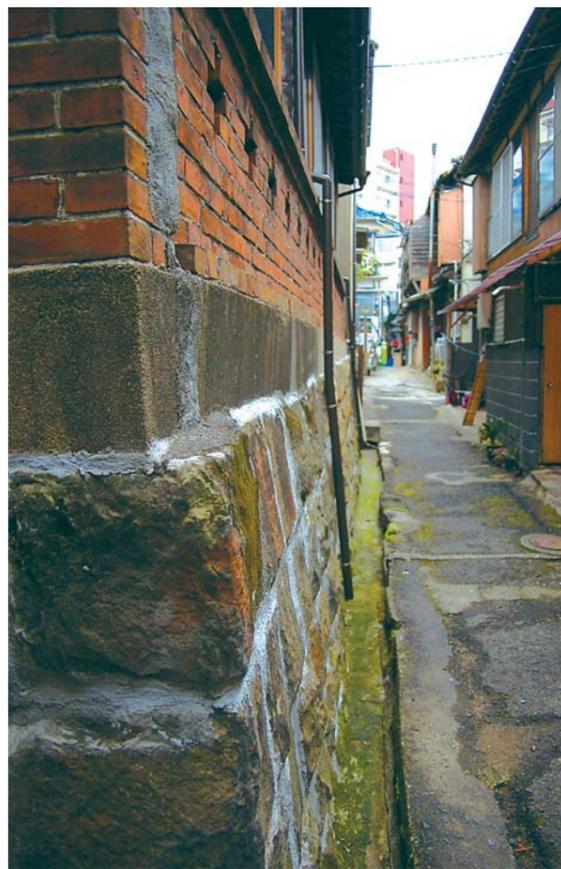
中／暖色系の懐かしい感じがするレトロ通りの照明

左／レトロ通りから見える繁華街の夜景

特集

佐世保の 路地裏

学生たちでつくる「させば港まちづくりスタジオ」。
昨年12月から学生らしい自由な発想で
佐世保のまちづくりの研究をしています。
メンバーの大半は県外出身者ですが、
まちづくりに対する思いは、
地元の人にも負けない熱いものを持っています。
彼らの目に佐世保はどう映っているのでしょうか。
今回は彼らの研究の中から、
「路地裏」の提案をご紹介します。



こんな名前にして こんな通りにしたら どうだろう

佐世保の

「あるもの探し」から始めたい

「よそのまちにあるから、うちにも欲しい」。こんな、ないものねだりが、個性に乏しいまちづくりにつながっているのかもしれない。

そこに「待ったー」をかけて、佐世保のまちに新しい風を起こそうとしている学生たちがいます。彼らのチーム名は「させば港まちづくりスタジオ」。都市計画や観光などを学ぶ長崎県立大、長崎国際大、九州大の三大学の学生約三十人が集まり、昨年十二月にスタジオを開設しました。

彼らが考えるまちづくりは「あるもの探し」。自然や歴史・文化を、もう一度ひも解きながら、古くて新しいものを再発見し、磨きをかけ、佐世保の魅力向上につなげたいと意気込んでいます。研究テーマは、「路地裏」、「赤レンガ」、「水辺」、「佐世保文化」、「NAVY（海軍）」の五つ。助佐世保観光コンベンション協会をはじめ、佐世保商工会議所、（株）親和経済文化研究所、させば四ヶ町商店街協同組合など、数多くの皆さんと連携しながら研究を進めています。

まちづくりと路地裏。こんな発想、若者にしかできませんよね。彼らが今後どんな切り口で情報発信し、佐世保の魅力向上に力を貸してくれるのか楽しみです。

**させば港まちづくり
スタジオメンバーによる
路地裏レポート**

レトロ通り

四ヶ町商店街のアーケード通りと直交している路地裏を夜に歩いてみた。明るい色で楽しいレンガ舗装、柔らかな照明の灯り、奥にちらっと見える食堂のレトロな雰囲気、路地の奥へ奥へと行ってみたい気にさせる。この路地裏はMR佐世保中央駅へも続いている通りでもあるため、人の出入りは比較的多い。実は、「佐世保港まちづくりスタジオ」の裏口ともつながっていて、個人的にも親しみのある路地裏だ。

突き当たりを曲がると、建物と擁壁の合間を縫って坂道が続いている。街灯がないため夜は暗く、段差が多いこともあり、奥へ入りづらい雰囲気だ。通りと私有地の境界もあいまいで、通っても良いのかどうか分からない道もある。奥へ奥へ進んでいってもまだ道は続いていて、一体この通りはどこまであるのだろう、どこにつながっているのだろうか、まるで迷路に迷い込んだかのような印象を与えてくれる。幼い頃、知らない道をドキドキしながら探検していた気持ちがよみがえってくるようだ。

何度も曲がり角を曲がって、階段を

しみにしています。

させば港まちづくりスタジオ
本島町四一十五（させば四ヶ町商店街協同組合二階）
ホームページ <http://sasebo-minato.jp>



3月に「Sasebo - Designs Cafe」を主催した
させば港まちづくりスタジオのメンバーと関係者の皆さん

のぼり、暗い道をひたすら歩いていくと、突然、佐世保の繁華街を見下ろす夜景が広がる。こんな驚きもまた路地裏の魅力のひとつだろう。

路地裏の魅力は夜にこそ発揮される。昼間の路地裏を訪れてみると、懐かしい灯りや雰囲気は消えていて、静かでありつつも空気が漂っている。だから夜の照明は、通りにある食堂のような暖色系の懐かしい感じのする色が良いだろう。それもあまり明るすぎるとは雰囲気が出ないので、奥の方が少し見える程度の灯りにして、奥へ奥へと行ってみたいくなる気持ちにさせる、そんな照明が良いのではないか。また、MR佐世保中央駅へのアプローチも、さらに整備すると、路地裏の一体感が一層高まると思う。

（P5路地裏マップ・D）

一休み通り

夜には程よい光を放ち、いい香りの漂うシンプルな路地裏。天気の良い日、明るいうちにこの通りを歩きながら空を眺めると、青空がきれいに見える。その空も電線がごちゃごちゃして見えて、逆にそれが路地裏らしさを醸し出しているようにも思える。道路もきれいに整備されていて、非常に歩きやすい通りになっている。

人通りの多いアーケードを歩き疲れたとき、「ちょっと一休み」という感じ